

近森会グループ看護部 業務改善活動報告会

業務改善への取り組みが定着

近森病院業務代表者会

SCU 看護師長 永野 智恵



約 170 名の参加を得て

2017 年 12 月 23 日、近森会グループ看護部業務改善活動報告会を開催しました。

参加部署 32 部署、参加人数は約 170 名でした。業務改善活動は、各部署が看護の日常業務の問題点に対して QC (Quality Control・品質管理) の手法に基づいて問題点を明確化し、業務の効率化、質の向上を目的に取り組むものです。

各部署の特性によって問題点はさまざまであり、今回の発表も、その部署の観点や特徴によってテーマが抽出されており、興味深い報告会となりました。

口演発表に加えポスター発表も

また、今回の報告会は形式を変更

し、口演発表に加えて休憩時間にポスター発表を行うことで一人でも多くのスタッフに参加してもらえるよう、更に一人がより多くの報告を傍聴できるように取り組みました。

この形式により、多くの報告が聞けて勉強になったとの感想が聞かれた一方で、休憩時間を活用してのポスター発表であったため質疑応答の時間が短いといった意見をいただきました。参加者の意見を基に次回はいよいよ一層参加者に満足してもらえる報告会にしていきたいと思っております。

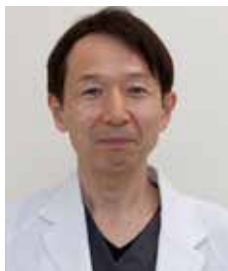
さまざまな改善活動の発表テーマ

発表テーマとしては、現在のトピックスでもある「地震災害時の行動について」や「コスト管理」、「患者サービス」、「看護ケア」、「環境整備」、「業務体制の見直し」、「物品管理」が挙げら

れていました。これらのテーマは、その部署の特性もありますが、少し視点を変えるとそれぞれの部署でも考え得るテーマと内容であり、「参考になった」「勉強になった」「自部署でも反映していきたい」といった意見が聞かれました。

継続し、モニタリングして

この業務改善活動報告会は 10 数年開催されており、開催の方式や形式はいろいろ変化してきていますが、目的としては今も昔も変わりなく続いています。業務改善への取り組みが定着してきた現在、これからの課題は、業務改善で行ったことを継続し、モニタリングしていくことで看護の質向上に向け、一人ひとりの看護師が自ら考え取り組んでいける組織になることだと考えます。 ながの ちえ



急性期脳梗塞に対する治療の進歩 t-PA 静注療法と血管内再開通療法

近森病院脳神経外科部長 林 悟

脳卒中治療における、ここ数年で一番大きな進歩といえば t-PA 静注療法があります。脳の血流が途絶えると時間と共に脳が壊死して脳梗塞になり、麻痺や意識障害などをおこしてしまいます。t-PA 静注療法はこの脳梗塞に対する治療法で、発症から 4 時間半の超急性期であれば使用することができる、血栓を溶かす点滴治療です。発症からの時間に加えて、いくつかの使用できる条件がありますが、t-PA は従来の点滴治療より明らかに効果があるとされています。

さらに、t-PA でも効果がない時や t-PA の適応外の場合、頭部 MRI と MRA で閉塞した血管の部位などから判断して、血管内再開通療法を行うことがあります。この治療法は、頭部の血管に詰まっている血栓を、カテーテルを使って取り除き脳血流を再開させ

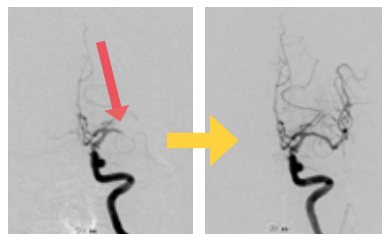
る外科的な治療法です。吸引型とステント型の道具を使います（写真）。主に発症から 6 時間以内の急性期に行いますが、できるだけ早く行う必要があります。

いずれの治療法も、脳卒中治療ガイドラインで強く勧められており、当院では過去 3 年間に、入院された脳梗塞患者さんの約 11%（日本の平均は 5%

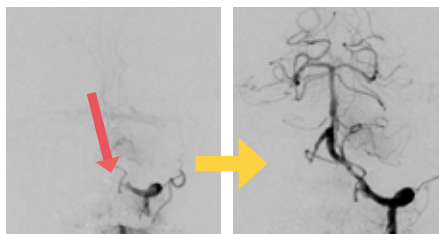
前後）に当たる 133 人に t-PA 静注療法を行い、91 人に血管内再開通療法を行いました。症状が出てから病院を受診するまでに時間がかかり、これらの治療が間に合わない場合もあります。ろれつが回らない、手足の力が入らないなどの症状が出たら、早めに受診しましょう。

はやし さとる

血管内再開通療法 吸引型



血管内再開通療法 ステント型



近森病院 附属看護学校

オープンキャンパス 追加開催のご案内

開催日：平成 30 年 3 月 24 日（土）

開催時間：13：00～16：30

（受付開始 12：30～）

開催場所：近森病院附属看護学校

※オープンキャンパスの事前予約、詳細については、本校ホームページまたは事務局までお問合せください。

【お問合せ先】

TEL 088-871-7582（代）

近森病院附属看護学校 事務局

● 近森看護学校通信 23 ●

2 年生の領域別、臨地実習開始



11 月末から 2 年生の領域別実習が始まり、各病院・病棟のスタッフの皆さんにはたいへんお世話になっております。

1 年次基礎実習以来の実習で学生たちは緊張しつつも、それぞ

れの領域の特徴を楽しんでいるようにも見えます。なかには「将来はこの領域に進んで行きたいと思った」という学生、また「あなたはこの領域に向いてるんじゃない」といわれたと、嬉しそうに語ってくれた学生を見てみると、改めて実習での経験、そして患者さん、スタッフの方々との出会いは貴重であると感じたことでした。

年明けからも実習が続きますので、引き続き学生共々よろしく願い致します。

（田原 佳奈）



受診して良かったと感じていただける外来へ

近森オルソリハビリテーション病院

外来クラーク 嶋崎 優佳

近森オルソリハビリテーション病院は整形外科のリハビリテーション病院です。開院10周年を迎えた現在、外来患者数も延べ1カ月あたり1,200人に及び、外来の役割も拡大してきました。

当院外来には退院後の継続的なリハビリ通院、定期的な診察の方、注射療法などが来院されます。医師を中心に外来看護師・クラーク、そして医事課・リハビリスタッフ他、多くの医療スタッフが患者さんを取りまき、その人らしい生活につながるように支援しています。特に「患者さんをお待たせしないこと」を外来スタッフ全員で心がけています。

私たちクラークは、予約時間にあわせて診察が受けられるように、早目のお声がけをおこない、当日の検査や診察内容に応じた説明やご案内をしています。事前の情報収集や外来看護師との情報共有を行っており、患者さんにとって一番負担の少ない流れを考え

ています。診察時間の予約についても、定期的なリハビリ通院の方は出来るだけ希望される時間とし、また、初診の方は予約を午後にお取りし、医師が時間をかけて診察出来るようにするなどのスケジュール調整を行っています。

当院を受診して良かったと感じていただけるよう、スタッフ一同協力し、これからの外来を築いていきます。外来受診される方にとって、一番身近な存在として



業務に従事していますので、いつでもお気軽にご相談ください。

しまさき ゆか

ザ・RINSHO

シーメック

チームの一員

株式会社シーメック

C-HS 事業部 石丸 善啓さん



当社は現在近森会様にて医療材料・医療機器の販売、並びに各部署への医療材料のSPD(院内物流管理代行業務)をさせていただいております。

SPDとは一般的に医療材料等を各部署に正確かつ迅速に供給し、病院の物流管理業務の効率化を図るシステムです。当社も365日各部署にて使用された医療材料の補充・発注をサポートさせていただいております。

また上記業務以外にも手術室では、それぞれの手術症例に応じた器機・材料の準備(ピッキング業務)のサポートも行っております。

以上のような業務に携わる事でチーム医療を推進する近森会において、「チームの一員」という自覚を持ち、今後も病院の皆さんが医療業務に専念していただける環境づくりに従事させていただきます。

いしまる よしひろ



近森病院附属看護学校のサイトが

新しくなりました

デザインを刷新し、1月19日にリニューアル。スマートフォンからも見やすくなりました。

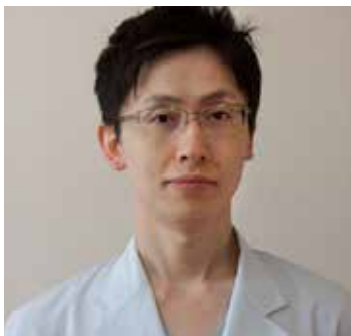
スマートフォン向け
学校紹介動画
公開中!



「乞! 熱烈応援」

転機

臨床工学部
主任 廣井利至



10年前 急性期CEへ異動してきた当時は総勢6名の一番下っ端でしたが今では後輩が8人、先輩の後ろをついて行く側から先頭に立ち後輩を引っ張っていく側への転機が訪れたと実感しています。急性期領域を通じてこれからも患者さんや職員の方々へ、これまで以上に貢献できるよう自己研鑽、後輩指導に励みたいです。

ひろい としゆき

ハッスル研修医

近森スクラブに憧れて

学生の時から憧れていた近森病院のスクラブに袖を通し、仕事を始めて早くも8か月が経ちました。私が学生の時に会った近森病院の研修医は、明るく、いきいきと仕事をしており、自信に満ち溢れてキラキラしていた姿が印象に残っています。そんな素敵な研修医になりたいとこの病院で研修を始めました。今、振り返ってみると、日々の出来事がすべて力になると信じて、全力で取り組んできたと思います。

また、おしゃべり好きな私にとって、多くの人と関わりながら医療に携わることが出来るため、日々楽しく研修が出来ています。時々おしゃべりが楽しすぎて話し込んでしまうこともあります(笑)。

日々のそのような経験を通して、



初期研修医 町田 彩佳

人として医師として成長できればと思います。また、学生の時に私が会った近森病院のスクラブが似合う素敵な研修医に少しでも早く近づけるように日々努力を続けていきます。

まちだ あやか

私の趣味

音楽鑑賞

私の趣味は、音楽鑑賞です。洋楽から邦楽までジャンルはバラバラですが幅広く聴いています。iphoneに曲を入れたり、Youtubeで流しながらいつも通勤中や休みの日に車の中で聞くのが好きです。

朝はハイテンポな曲を聴いてモチベーションを上げたり、夜はバラードを聞いて落ち着いたりとその時の気分で聞き分けています。

好きなアーティストは「かりゆし58」です。歌詞も音楽も元気が

近森病院理学療法科

理学療法士 立石 香乃

出る曲が多く昔からよく聞いています。また、毎年高知でライブがあるので高校生の頃からほとんど欠かさず行っています。今年も2月にあり、チケットを取りました。整理番号が後ろの方になってしまい少し残念ですがすごく楽しみにしています。おすすめの曲は「ナナ」や「アナタの唄」です。聞いたことがない方は良ければ聞いてみてください。

他にも、友達と旅行に行ったり高知の穴場スポットへ行き美味しいも



のを食べるのが好きです。誘惑にはすぐ負けてしまい、いつも食べすぎます。

皆さんのおすすめの場所や音楽があれば、ぜひ教えてください。

たていし かの

お弁当拝見 58 家族の健康



近森病院
救命救急センター (ER)
看護師 戸田 由夏



私は、自分と夫のお弁当作りを頑張っています。お弁当作りで一番大切にしていることは、野菜をたくさん詰めることです。お正月でたくさんごちそうを食べた夫は、体重が増

加傾向です。そのため最近のお弁当は、野菜の量を一段と増やしています。

最近は、おかずをヘルシーに作る料理にはまっています。これからも、

家族の健康を考えながら、健康なお弁当を作っていきたいです。

とだ ゆか



成長し続ける



初期研修管理委員会 研修プログラム責任者
近森病院救急科 科長 三木 俊史

卒後臨床研修評価機構 (JCEP) の臨床研修評価を受審し、4年認定エクセレントといった最高の認定基準をいただきました。現時点で全国ではまだ4病院しか認定されておらず、極めて質の高い、優れた臨床研修病院として非常に高い評価を得ました。

評価された点は特有の臨床・人材教育システムの歴史があることや、特に各病棟に薬剤師・管理栄養士・リハビリスタッフ・MSWが配置され、徹底したチーム医療を実践し、その中で研修医も一人のスタッフとして有機的に動いていることが高く評価されまし

た。これは臨床研修プログラムだけでなく近森病院の臨床の質とシステム自体が評価されたものだと思います。また救急外来での一般外来研修も他の病院にはない特徴であり、地域における当院の歴史を感じるとのことでした。

今後は今回の評価でも指摘されましたが、時間外労働などこれからの医療において問題となっている医師の働き改革を考えていくなかで、いかに質を落とさずに臨床研修を行っていくかが課題です。

私が当院での初期臨床研修第1期生で、当初、指導医も研修医も手探りの

状態で臨床研修をみんなで作り上げてきたものが、このような形で結実したのは非常に感慨深いものがあります。これからも現在の臨床研修システムを継続しつつ、より良い改革ができるよう頑張っていきますので、引き続きご協力よろしくお願いします。

最後に今回受審にご協力いただきました皆様方、誠にありがとうございました。

みき としふみ

精神科 50周年に寄せて 第5回 (最終回)「こぼれ話」

ビヨルクステン医師

近森病院精神科 田村 雅一

今、当院には毎週、元・南カリフォルニア大学教授のビヨルクステン医師が来訪されています。2017年ひろっぴ6月号にも掲載されましたね。

ビヨルクステン医師とは35年前の1982年に出会ったときから始まりま。ビヨルクステン医師は日本に行きたいという思いがあり、米国サウスカ

ロライナ医科大学内科で教授として働いていた小川真紀雄先生に訊ねたそうです。

小川先生は、私と高校・大学の同級生で日本の精神科医を私しか知らなかったのか、「高知県に田村雅一という医師がいる」と紹介したのです。その縁で開学したばかりの高知大学神経精神科教室の池田教授に紹介し、留学を受け入れてもらいました。また、近森病院の野村事務長には滞在中の住宅をお世話になりました。

ビヨルクステン医師が来高されてからは、私どもの診療を見たり、講義をしてくださったり、時には患者



さんと暮をしたりと、週一回の頻度で訪れて下さりました。当時は常勤医が私一人で(明神医師は週一度の非常勤)大勢の患者さんを受け持つ状況でしたが、意外と彼からの評価が高く、アメリカでも通用するとずいぶん褒めて下さり、光栄に感じていました。

まだこんなにきれいではなかった近森病院の時代です。診療そのものを褒めてくださり、とても嬉しく思いました。

たむら まさかず



▲ビヨルクステン先生を囲み明神医師と、筆者左



はし拳段位いただきました！

近森病院 院長 近森正康

毎年3月に開催される「はし拳大会 土佐のおきやく場所」にチームCMKとして挑戦を続けること早5年。チーム通算で優勝2回、準優勝1回の成績をあげてきました。

筆者も優勝を一度経験しましたが、最初の3年間は公式戦で一度も勝利することなく、仲間からは「はし拳界の

はるうらら」などと冷やかされたのも懐かしく思います。

昨年末にこれまでの功績が認められ、高知県酒造組合から拳士4段3名、3段3名、初段1名の段位を頂くことができました。高知県の伝統文化振興の為にこれからも精進していきたいと思えます。

ちかもり まさやす



新しいドクターヘリを使った高知県初の患者搬送

12月20日に高知県がドクターヘリの新機体を導入しました。同日、近森病院へ高知県初の患者搬送がありました。



◀従来型より機体が長くなりました。新機体のBK-C2型。運動性能の向上と広いキャビンスペースを有し、操縦室の広い視野が確保されています。新機体の目印もアンパンマンです。



◀従来機より内部は広くっており、搬送中の処置もしやすくなりました。

2月の歳時記

梅の花

近森病院 SCU
看護師 小松 由佳



2月もまだまだ寒さの厳しい日が続きますが、暖かい春を待ち遠しく思います。

早春を告げる梅の花ですが、高知での見頃は2月中旬～3月上旬のようです。土佐山の嫁石に1200本の木がある梅園があります。梅の香りが広がり、渓谷を流れる水の音など自然を感じながら歩くと、ゆったりした和やかな気持ちになり、リラックスできます。

こまつ ゆか



近森会 保育室 そろと

あしながおじさんからたくさんの絵本をいただきました。



看護師特定行為研修の実習が始まります。

看護師特定行為研修指導責任者 川村 佳代

看護師特定行為研修の2期生5名は、12月までに共通区分を全員終了しました。

1月からは「水分及び栄養管理に係る薬剤投与関連」・「血糖コントロールに係る薬剤投与関連」の区分別科目に進み、輸液とインスリンに関する病態を学んだのち、2月から近森病院において脱水や栄養不良、糖尿病などの患者さんに対して、問診と身体所見、検査所見などをアセスメントした上で

「手順書を用いた特定行為」の実習を行います。

「看護の視点をもちつつ特定行為を行える人材」となり、医療・ケアの質向上に貢献できるよう頑張っていきたいと思っております。ご協力どうぞよろしくお願いいたします。

かわむら かよ



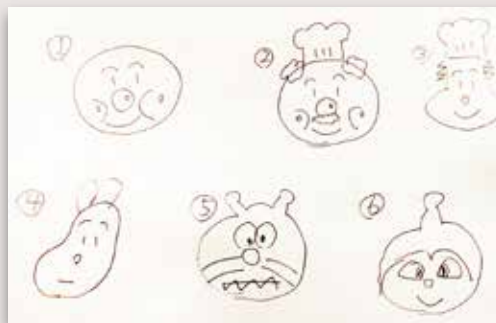
第1回 近森会グループ学術集会 2018 タイムスケジュール

12:00 ~	開会・近森正康大会長よりあいさつ				
各会場へ移動		口演発表			ポスター発表 (13:40 ~ 14:20) 消化器 (1)、脳神経 (4)、 救急 (2)、その他 (9)
12:20 ~ 16:10	第一部	A会場 心臓 (5)、 症例報告 (2)	B会場 チーム医療 (5)、 症例報告 (2)	C会場 脳神経 (5)、 症例報告 (2)	
	第二部	消化器 (3)、整形 (4)	精神 (5)、褥瘡 (2)	地域連携 (3)、その他 (4)	
	第三部	優秀演題 (7)			
16:20 ~ 17:20	特別講演	片山医院 院長 片山壽先生 (広島県) 【ご略歴】元尾道市医師会会長、尾道医師会地域医療システム研究所所長			日時：2月10日 (土) 12:00 ~ 17:40 場所：近森教育研修センター
17:20 ~	最優秀演題発表・表彰式・閉会				

リレー エッセイ

アンパンマンは偉大だ

システム管理室事務 河津 幸輔



私には1歳5カ月になる娘がいる。その娘が寝ても覚めてもアンパンマン。高知で生まれたからなのか!? 高知人のDNAにはすでにアンパンマンが刷り込まれているのか、と思うほど (私は香川生まれ)、帰宅した私の顔を見てもアンパンマン! 寝言でもアンパンマン! 車で移動中に突然アンパンマン! なにごとかと見渡すところでも110番のアンパンマンシールを見つけ叫んでいたのだ。天才だ。

アンパンマンを知らない人のために私が書いたイラストで紹介しよう。

①アンパンマン、主役だが顔が弱点だ②ジャムおじさん、アンパンマンの顔を作る人だ。③バタコさん、アンパンマンの顔を投げた人ほぼ100%の確率で命中する。④チーズ、犬⑤バイキンマン、バイバイキンで流行語大賞をとった。⑥ドキンちゃん、小悪魔女子。自分でいうのもなんだがとてもクオリティが高い。娘はこれらをみてすべて答える。そう「アンパンマン」と。天才だ。

先日香北にあるアンパンマン

ミュージアムにいった。目的はミュージアムではなく目の前にある公園だった。だがその日は風があり寒かったため20分ほど遊び、我慢できずミュージアムに入ることとなる。おすすめはアンパンマンの街並みを再現したジオラマだ。娘には喜んでもらえたと思う。ぜひ1度は遊びに出かけてみてね。

かわつ こうすけ

ぶどう品種を知り、個性を探る その 40 ポルトガル篇

アルバリーニョ

イベリア半島の北西部にほぼ限定された土着品種です。最も有名な産地はスペイン・ガリシア地方のリアス・バイシャスと、ポルトガル北部のミーニョ地方ではヴィーニョ・ヴェルデの中でも最高のワインがこのぶどう100%から生産されています。

このぶどうの栽培されているエリアはイベリア半島では例外的に雨の多いエリアで、日本平均と同じくらい雨が降り、ヨーロッパでは珍しく、このエリアのぶどう栽培は日本と同じく、棚栽培です。

ジューシーな桃を連想させる、リッチな果実味と、華やかな香りが特徴です。リッチな果実から想像するよりも、

プリメイラス・ヴィーニャス／ソアリエイロ／ポルトガル、ヴィーニョ・ヴェルデ地方●ポルトガルのトップ生産者に輝いた、アルバリーニョ種のワインの先駆者的存在。ソアリエイロはアルバリーニョのトップ生産者のひとりとしての国内外から認められています。1974年に最初にアルバリーニョ種を植え、1982年に初めて「ソアリエイロ」ブランドをリリースしました。「ソアリエイロ」という名前は畑の中でも最も日当たりの良い場所の名前から由来しています。その大部分の畑の葡萄は有機農法で栽培されています。



遥かに鋭くて量の多い、キレのある酸味と、海の塩を連想させる味わいが感じられ、魚介類との相性を良くしています。

鬼田知明（有限会社鬼田酒店代表）

● 2017年12月 県外出張件数 ● 件数 39件 延べ人数 77人

図書室便り 2017年12月受入分

- 麻酔科研修チェックノート第5版／讃岐美智義
- 透析患者への投薬ガイドブック慢性腎臓病 (CKD) の薬物治療改訂3版／平田純生 (他編著)
- 外保連試案 2018 手術・処置・生体検査・麻酔試案／外科系学会社会保険委員会連合 (編)

《別冊・増刊号》

- 臨床栄養別冊めざせ！リハビリテーション栄養のNST48 CASENo.1～24－CAREガイドラインに基づく症例報告／若林秀隆 (他編著)

2017年12月の診療数 システム管理室

近森会グループ

外来患者数	18,842人
新入院患者数	969人
退院患者数	1,066人

近森病院 (急性期)

平均在院日数	14.03日
地域医療支援病院紹介率	72.95%
地域医療支援病院逆紹介率	192.55%
救急車搬入件数	566件
うち入院件数	307件
手術件数	432件
うち手術室実施	295件
うち全身麻酔件数	176件

編集室通信

正月明けは毎年身体が重い。食べ過ぎとダラダラ生活の結果である。ソファでお気に入りの毛布に顔を乗せて寝ている愛犬を撫でながら“お前はいいよなあ”と呟く。“これで結構大変なんだよ。だって〇〇だし～”なんて反論もせずには顔をかいて寝ている。

よし、今度の休みにはfrisbeeしに行こう！寒くなかったら！（ほらね、やっぱり・・・） にゃ～ご

ギャップの大きさの魅力

一カ月で体重 15 キロ減！？

小学校時代から増え始めた体重は、大学入学時にはピークに達し、90キロ近くなっていた。居心地のいい家庭でゆったり育ち、「食べたいだけ食べた結果（苦笑）」だったらしい。

それでも、「モテたい一心（笑）！」で、大学デビューに向けてダイエットを決定。一人暮らしを始めてわずか一カ月、黄金週間の休みに京都の実家へ帰郷した折には15キロ減に成功していて、家族に驚かれた。

これが、「淡々とした人生で、これといったエピソードは思いつかない…」と恐縮する蒼石先生の開口一番、自己紹介の弁だった。

急激なダイエットは、後に悪影響を及ぼしそうだが、リバウンド（揺れ戻し）もなく、今日に至っている。その秘訣が医療職を目指した医学生への醍醐味だろうし、ぜひ知りたいところ。だが、そこは「企業秘密です（笑）」というノリ。患者さんにもスタッフにも、「気さくな先生」という印象が強いのはそんな面があるからかも知れない。

ところで、中学、高校、大学と部活は野球部で、ポジションは常にキャッチャーだった。先生曰く、「デブでも活躍できるポスト」で、「防具のいでたちが気に入っていたため」だった。

と、歌手の近藤真彦風のルックスで、澄ましていう蒼石先生には、いかにも関西育ちっぽい「お笑い系」の要素が見え隠れしているようでもある。

診療科の決定に当たり

とはいえ、コミュニケーション力に自信があるわけではないらしい。そもそも、「世渡りは苦手なサラリーマンに向いているとも思えず…」が、医師の道を選んだきっかけだったとは…。

が、脳神経外科・リハビリテーション科の開業医を父に持ち、その姿をずっと見て育った少年には、肩に力が入らない自然な進路として、医学部進学が映ったのではないだろうか。

その医学部で高知大学を選んだいちばんの理由は、大好きではあっても、「とにかく親元を離れたかった」ため。でも親元の関西圏からそれほど遠くないことも条件。しかも、「青空の下でカラダを動かす趣味を持つのが健全」という発想のある蒼石先生には、高知の青い海と豊かな自然、眩しい太陽のイメージがピンと来たのだろう。

さて、医師となったのち、専門を決める際、泌尿器科へと進む大きな要因は、実は野球部が関係したようだ。野球部で尊敬できる先生も教授も顧問も皆さま泌尿器科に属していて、結局、「働きやすさが決め手」だった。

泌尿器科の印象は、尿とか前立腺とか、対象範囲が一見狭そうなのに、やってみると奥が深い。その「ギャップの大きさ」に驚き、当初はどうしてもこの科でという強い思いがあったわけではないけれど、結局、いまもって泌尿器科に属している。

高知大学医学部泌尿器科の医局に呼ばれ、専門の研究を始めて一年半経過した頃。父親が病気で倒れ、急遽帰郷。クリニック診療を経験した。その父上が元気に復活されると、「また勉強しておいで〜！」と快く送り出され、昨年4月の近森病院就職にも結局繋がった。大学病院で想像していた以上に近森病院での症例数は多く、いまはとにかく経験を積みたい段階だという。

「患者力」のサポーター

医師への信頼が厚いとみるべきか、



▲外来センター5階外来。模型をいつもそばに、分かりやすい説明に努める蒼石先生

「先生にお任せ」という姿勢の患者さんもある。蒼石先生はその点について、「自分がどんな薬を飲んでいるか、何が困っている点かなどは、きっちり押さえておいて欲しい。それをボクも頑張らせてサポートしたい」と考えている。

そして、周りのスタッフに頼られる医師になること、これが当面の目標である。患者さんには心配事を遠慮なく話してもらいたいし、「よくなっていくねと励まし合える関係でありたい」とも願っている。

プライベートでは結婚一年半。倉敷市の観光大使も務めた妻は、高知の企業でいま地域振興に携わっている。お互い仕事に追われる身で、高知の観光地巡りはまだ先のことになりそうだ。

それと、育った家庭は両親も姉も妹も皆テニスを楽しんでいたそうで、「余裕ができたならテニスを始めたいし、ロードバイクにも挑戦したい。琵琶湖一周150キロのサイクリングロードは快適」だとか。さぞかし！

ペーシング治療の革新！



近森病院循環器内科

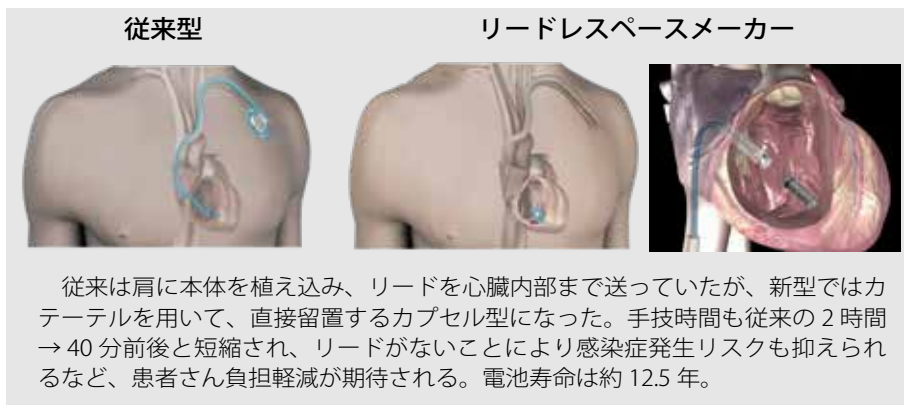
部長 要 致嘉



なに？これ？ 実は、ペースメーカーです。これがペースメーカー？ そう、正確にはリードレスペースメーカーといいます。従来のペースメーカーは、胸部の皮下ポケットに本体を埋め込み、経静脈的に右房または右室にリードを留置します。

このリードレスペースメーカーは、鼠径部から大腿静脈を経由して右室に直接留置することでペーシング治療を行います。重さ 1.75g、約 1cc のカプセル型ペースメーカーです。つまり、ポケットの作成やリードを必要としないペースメーカーになります。

本邦では 2017 年 9 月より使用可能となり、当院でも治療を開始しました。1 時間弱の手術で入院期間は 4 日間です。まだ、対象疾患は限られています



従来は肩に本体を植え込み、リードを心臓内部まで送っていたが、新型ではカテーテルを用いて、直接留置するカプセル型になった。手技時間も従来の 2 時間 → 40 分前後と短縮され、リードがないことにより感染症発生リスクも抑えられるなど、患者さん負担軽減が期待される。電池寿命は約 12.5 年。

が、皮下ポケットやリードによる合併症や生活制限がないことは、患者さんに安心感があるものと思います。

ペースメーカー治療は、治療後より、本当のおつきあいが始まります。当科では、ひとりひとりにあった最新のいい治療をこころがけています。

【患者さんよりコメント】

60 歳 男性洞不全症候群

「ペースメーカー治療をしたことを意識せず、日常生活を過ごせています。生活制限も少ないので散歩も楽しんでいます」

かなめ のりよし

FCCS (Fundamental Critical Care Support) コース開催

2018 年 1 月 13、14 日

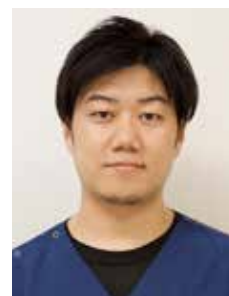
FCCS コース、近森病院を会場として四国初開催



2018 年 1 月 13、14 日に四国初の FCCS コースが近森病院を会場として開催されました。

この FCCS (Fundamental Critical Care Support) コースは、アメリカ集中治療学会 (SCCM) が行っている off the job training course の一つで、集中治療を行うにあたって必要とされる基礎知識を“講義”と“Skill Station”で構成されるプログラムにて、2 日間で学んでいただけます。最近では、医師以外にもメディカルの方々の受講も増え、多職種間連携のコンセプトが普及

近森病院救急科科長 三木 俊史



しつつあります。

私もインストラクターとして参加し、今回、県内外から 50 人ほどの受講生が集まり、当院からも初期・後期研修医 10 人が受講しました。

今後も定期開催をいたしますので、重症患者管理に直面する医師や研修



医、看護師、臨床工学技士、理学療法士、薬剤師の皆さん、私たちと一緒に勉強してみませんか。もちろん、将来、集中治療医を目指そうと考えている先生、若手指導の参考にしたいベテランの先生方も受講大歓迎です。

みき としふみ